

コスタリカ大統領選挙 ―独立 200 周年を目指し国民の団結を呼びかける若き大統領の就任

木村 泰次郎

2018 年 2 月 4 日の第 1 回投票と 4 月 1 日の決選投票を経て、コスタリカで 4 年ぶりの大統領選挙が実施された。第 48 代の大統領に選ばれたのは、38 歳のカルロス・アルバラード市民行動党 (PAC) 候補である。

近年、世界各国で行われる国政選挙では予想外の展開になることが多いが、2018 年のコスタリカ大統領選挙でも紆余曲折があった。

大統領選挙 (第1回投票) の動向

2018 年大統領選挙及び同時に行われる国会議員選挙は、2017 年 10 月、選挙最高裁判所 (TSE) での公示セレモニーで幕開けした。しかし、選挙前 1 か月になっても、街では選挙に向けた盛り上がりは見られず、街は普段と変わらず至って平穏であった。というのも、2014 年に国民の期待を背負って市民行動党 (PAC) から初選出されたソリス大統領は、少数与党出身でもあり、政権最終年に至っても目に見える成果をもたらせなかった。その上、当国においては過去最大の贈賄疑惑とされる中国製セメント事件を巡り、国家三権の要人の関与が発覚するに至り、国民の政治に対する不信は深まり、自ずと選挙に対する関心も高まらなかった。

そのような状況の下、過去 70 年のうち 38 年間政権を担い 4 年ぶりの政権奪還を目指す野党第一党国民解放党 (PLN) のアントニオ・アルバレス候補 (元国会議長) は、党内の候補選出選挙で強力なライバルのフィゲレス元大統領を破り、満を持して選挙運動を開始した。しかし、選挙運動前半では世論調査で首位に立ったものの、ハーバード大卒のエリート候補への支持は伸び悩んだ。一方、SNS を通じて人気が上昇したのが、「コスタリカのトランプ」と評されたファン・ディエゴ・カストロ国民統合党 (PIN) 候補である。元公安警察相でもある同候補は、舌鋒鋭く「汚職にまみれた政治機構や政治家を一掃する」とのスローガンを掲げ、過激ではあるが分かりやすい主張で政府・伝統的な政党への批判を繰り返し、昨年 12 月の世論調査で首位を奪った。

しかし、2018 年 1 月 9 日、選挙情勢が一気に流動化するニュースが舞い込んだ。同日、サンホセ市に所在す

る米州人権裁判所が同性愛者の結婚を認めるようにコスタリカ政府に対して勧告的意見を出したのだ。国内の LGBT 活動家は大いに同意見を歓迎したが、同性愛者同士の結婚を認めるべきかどうか、さらには米州人権裁判所の勧告的意見を遵守する必要があるのかどうかを巡り論争が巻き起こり、大統領選挙はその争点一色になった。

その機に乗じて一躍頭角を現したのが、ファブリシオ・アルバラード国家復興党 (PRN) 候補である。同候補は、キリスト教福音派政党に所属する国会議員であり、聖歌歌手というユニークな経歴をもっている。同候補が、同性愛者同士の結婚に断固たる反対を示したことで、保守的な考えをもつ有権者の支持を急速に獲得し、1 月中旬の世論調査で支持率が首位になった。

一方、同性婚に賛成する姿勢を明らかにしたことで、それまで注目されていなかった与党 PAC のカルロス・アルバラード候補 (昨年 11 月時点での支持率は 3%) も急速に支持率を増やした。しかし、投票日の 10 日前になっても、有権者の約 37% が投票態度を決めておらず、これらの浮動票が投票結果を大きく左右する可能性を残し、投票日を迎えることになった。

大統領選挙 (第1回投票) の結果

第 1 回投票の結果は、首位がファブリシオ・アルバラード

表 1：大統領選挙第 1 回投票 (2 月 4 日) の結果

大統領候補・政党	得票数	割合 (%)
ファブリシオ・アルバラード (PRN)	538,504	24.99
カルロス・アルバラード (PAC)	466,129	21.63
アントニオ・アルバレス (PLN)	401,505	18.63
ロドルフォ・ピサ (PUSC)	344,595	15.99
ファン・ディエゴ・カストロ (PIN)	205,602	9.54
ロドルフォ・エルナンデス (PRSC)	106,444	4.94
オット・ゲバラ (ML)	21,890	1.02
エドガルド・アラヤ (FA)	16,862	0.78
セルヒオ・メナ (PNG)	16,329	0.76
マリオ・レドンド (PADC)	12,638	0.59
ステファニー・カンボス (PRC)	12,309	0.57
オスカル・ロベス (PASE)	7,539	0.35
ジョン・ベガ (PT)	4,351	0.20
合計	2,154,697	100

ド PRN 候補、第 2 位がカルロス・アルバラード PAC 候補、第 3 位がアルバレス PLN 候補となり、上位 2 候補で決選投票が行われることになった。

二人のアルバラード候補の勝因は何であったのだろうか。

ファブリシオ候補は、大統領選挙を同性婚に反対するための「国民投票」に仕立て、伝統的な家庭を大事にする保守層や市井に訴えたが、その戦略が功を奏した。特に、当国沿岸部の貧困地域では圧勝した。

カルロス候補は、与党にとっては逆風の中での選挙活動であったが、汚職問題への関与が疑われていた与党議員や政府高官に対する罷免をソリス大統領に要求し、政府と距離を置く一方、党内で清廉潔白を旨とするオットン・ソリス国会議員（与党 PAC の創設者）と組んで、反汚職に対する旗幟を鮮明にした。また、若さと巧みな弁舌で若者を中心に好感度が増していった。終盤戦では、リベラルな若者を含め投票態度を決めていなかった約 4 割の有権者の票を取り込む形で、アルバレス候補（PLN）との 2 位争いを制したと言える。

決選投票に進むことになった第 1 位のファブリシオ候補及び第 2 位のカルロス候補はいずれも若い（前者 43 歳、後者 38 歳）。当国では、18 歳から 39 歳までの国民が有権者の半分以上を占めているが、若い世代が若き指導者の誕生に期待を寄せたことが窺える。

他方、敗北した国民解放党（PLN）等の伝統的な政党の候補者の年齢は 59 歳またはそれ以上であった。彼らは、組織力や資金力を活用して選挙戦を有利に進めたが、十分に若者を惹きつけたとは言えず、逆に伝統的な政党に対する国民の不信の根深さが浮き彫りになった。

なお、同時に行われた国会議員選挙では、いずれの政党も過半数の議席を得なかった（図：参照）。

大統領選挙決選投票の結果

当国では史上 3 回目となる決選投票が 4 月 1 日に行われ、カルロス・アルバラード候補が、約 132 万票（61%）を得て勝利した。ファブリシオ・アルバラード候補の得票は、約 86 万票（39%）であった。聖週間休暇（セマナ・サンタ）の最終日であったにもかかわらず、棄権率

は第 1 回投票よりも改善し、33.54% であった。一方、直前の各種世論調査では、いずれもファブリシオ候補が僅差ながらも優勢を保ち続けており、過去 2 回の決選投票では、世論調査でリードしていた候補が勝利していた経緯もあったため、接戦は演じるが結局はファブリシオ候補が勝つと見なすマスコミ関係者が多かった。

しかし、結果はカルロス候補が、予想に反して圧倒的な勝利を収めた。国会議席数では第 3 党に過ぎない PAC の同候補の勝因は何であったのか。

カルロス候補は、同性婚や LGBT の人権を争点にして世論を二分化することを避け、むしろ国民の団結を呼びかけた。また、次期国会においてはいずれの候補が勝利しても少数与党となる現実を念頭に、決選投票に向けて「国民連合政権」の樹立を目指すことを表明し、他党との連携を模索した。その結果、中道右派政党キリスト教統一党（PUSC）の大統領候補であったロドルフォ・ビサ氏の個人的な支持を取りつけたほか、同党の副大統領候補であったカマチョ元財務大臣がカルロス候補の経済チームへ参加した。党の垣根を越えた他党勢力との連携が、中道右派的な政策を支持する有権者の票の取り付けに効を奏し、とくに首都圏での圧倒的な勝利に結びついた。

一方、ファブリシオ候補は、第 1 回投票において首位を獲得したものの、同性婚への反対以外では政策面で有権者の支持を得ることができなかった。また、キリスト教福音派政党の代表を一国の大統領にすることに対して不安があった面も否めない。実際のところ、かかる懸念を背景に、自由で多様な価値観を認める社会を志向する市民団体が、コスタリカ連合（Coalición Costa Rica）と称する、カルロス候補支援キャンペーンを展開し、その活動が青年層の投票態度に一定の影響を与えた。

さらにファブリシオ候補にとり大きな痛手となったのは、同候補の教父とも言えるロニー・チャベス牧師が、国民に尊崇されているカルタゴ市ロス・アンヘレス教会の「黒い MARIA 像」を悪魔扱いしたことが SNS を通じて拡散し、カトリック信者をはじめとして、同 MARIA 像を敬愛する多数の国民の反発を買ったことである。その怒りをぶつけるためにカルロス候補に一票を投じた有権者が少なくなかったと見られている。

また、それまで PLN 支持者に自由投票を促していた同党アルバレス候補が土壇場になり勝ち馬に乗ろうとファブリシオ候補支持を表明したことが、既成政党に不快感をもつ投票者の心を返ってカルロス候補に向かわせる皮肉な結果となったとも分析されている。

表 2：大統領選挙決選投票（4 月 1 日）の結果

大統領候補・政党	得票数	割合（%）
カルロス・アルバラード（PAC）	1,322,908	60.59
ファブリシオ・アルバラード（PRN）	860,388	39.41
合計	2,183,296	100

出所：選挙最高裁判所（TSE）



就任演説を行うアルバラード大統領（左後方の女性がイダルゴ新国会議長）
出所：写真はいずれも在コスタリカ日本大使館

アルバラード政権の展望

カルロス候補は、4月1日深夜の勝利宣言において、「独立から200周年を記念する2021年に向けて、国民が一つになり、コスタリカを前進させていこう」と国民に呼びかけた。4月26日に次期政権の閣僚が発表されたが、政権の要となる大統領府長官の要職にピサ PUSC 大統領候補を起用するなど他党関係者を含め幅広い人材を垣根を越えて抜擢した。また、25名の閣僚のうち、キャンベル第1副大統領兼外相を筆頭に14名（56%）が女性というジェンダー・バランスの点でも画期的な試みを行った。

カルロス・アルバラード大統領は、5月8日の大統領就任式においても、あらためて国民が団結して国家が直面する課題に取り組むよう呼びかけた。その演説は、大言壮語を控えた現実的な内容であり、実務に徹する真摯な姿勢が窺えるものであった。

新政権が直面する待ったなしの課題は、なんとと言っても対 GDP 比 6.2% に達した財政赤字への対処である。そのためには既に国会で審議中の財政強化法案を可決させる必要があり、早速、同大統領はピサ大統領府長官とともに野党との調整に乗り出した。また、「脱炭素化社会」の実現も最優先課題の一つであり、大統領就任式では、大統領夫妻が閣僚とともに水素バスに乗って就任式会場に駆けつけて、その意欲を示した。交通インフラ面での脱炭素化の取組については、建築家でもあるクラウディア・ドブレス大統領夫人が、高速通勤電車の導入、バス専用車線の開設等の具体的な事業を総括する立場に就任した。

なお、新国会は、57名の国会議員のうち、26名（46%）が女性であり、36歳の与党女性議員を議長に選出した。我が国では、「候補者男女均等法」が可決したところであるが、コスタリカの先進的な取組には学ぶところが多い。

おわりに

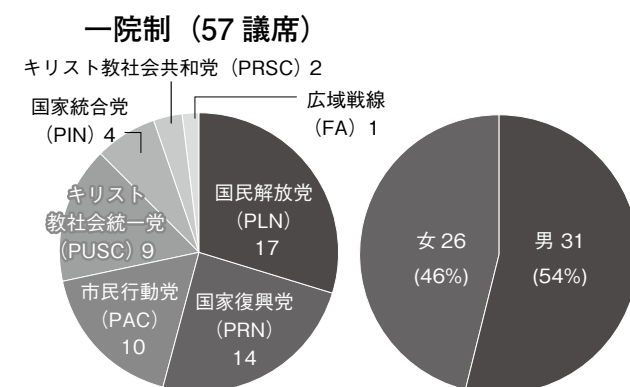
大統領就任式翌日の5月9日、アルバラード大統領は、



大統領就任式で大統領夫妻や閣僚が使用した水素バス

図：政党別議席数

図2：男女別議席数



アルバラード大統領と武井俊輔特派大使との朝食会（左から、ドブレス大統領夫人、アルバラード大統領、武井特派大使、キャンベル外相、伊藤駐コスタリカ大使）

大統領府での初めての公務として、我が国の武井俊輔特派大使を朝食に招き、会談した。我が国は、これまでも地熱発電、下水道処理、生物多様性保全、環境教育等の環境分野でコスタリカを支援してきたが、同大統領から、あらためてクリーン・エネルギー等環境分野での日本の協力に対する期待が寄せられた。

「共に（Juntos）」を中南米外交の指導理念とするわが国としても、若さ溢れる大統領の下で再出発したコスタリカとの関係増進を進める好機を迎えている。

（本稿は著者の個人的な見解であり、外務省及び在コスタリカ日本大使館の見解を代表するものではない。）

（きむら たいじろう 在コスタリカ日本国大使館参事官）